

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態 (講義・演習・実験等) の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導 (院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導 (専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価 (評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生の履修ニーズに対応した開講科目の見直しを行う。	→履修者数一覧。	B	B			
2. マルチメディアを活用した授業形態を2013年度までに3割に拡大する。	→マルチメディア利用の科目数。	B	B			
3. オムニバス方式の授業形態をさらに工夫する。	→オムニバス形式科目に関するFDワークショップの開催。	B	B			
4. 学生による授業評価制度を活用し、授業内容、運営方法等の改善を進める。	→学習効果測定指標の開発、実施。	B	B			
5. 研究活動への学生の主体的参加を促すため、言語コミュニケーション文化学会の活動を強化する。	→学会での研究発表数。教員・学生の参加者数。学会の講演会、教員を主体とするシンポジウムの公開。	A	A			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.3.1	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。 (説明) オムニバス方式の科目を各分野に配置しており、単一のテーマに対する複数のアプローチに触れられるよう工夫している。マルチメディアを用いることで教育効果が上がることが期待される科目については、そのような授業形態を積極的に取り入れつつある。講義科目の1/3程度はパワーポイントなどを使用している。
小項目6.3.2	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 (説明) シラバスには授業の目的や方法の他に毎回の授業内容も詳細に記載している。また、毎学期の授業開始時にはシラバスに書かれた予定に従ってどのように授業を進めていくのかを説明し、受講生がその科目における学習内容を把握できるよう徹底している。
★小項目6.3.3	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 (説明) 評価方法・基準をシラバスと初回の授業で明示し、それに基づいて厳格に評価・単位認定するよう徹底している。
小項目6.3.4	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 (検証の有無) <input checked="" type="checkbox"/> いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 全科目において学期末に学生による授業評価を実施している。授業評価の回答は、教員による学生の評価に影響が出ないように、成績の提出が終わった後で各教員に渡される。また、回答は教務学生委員がチェックを行う。
その他	

《評価指標データ》

- 履修者数規模別の授業科目数 (少人数・中人数・大人数)
- 少人数授業の授業形態の調査
- 規模別講義室・演習室使用状況
- マルチメディア教室の稼働率
- 遠隔授業を活用した授業の比率
- 各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況【基本的な指標データ】
- 履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
- 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 成績評価の分布が適正な科目 (平均点が70-75点) の比率
- GPA値 (全学、学部別、男女別など)
- 定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
- オープン授業 (授業公開) の全授業における割合
- 学生の授業評価の実施率 (全学、学部別)
- 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
- 大学院生の論文件数 (査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
- 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
- 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注) 出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	研究活動への学生の主体的参加を促すため、言語コミュニケーション文化学会での活動が活発に行われている。大学院学生による研究発表者数が増えており、本年は38名が発表した。講演会、シンポジウムも合計7回開催した。
小項目6.3.2	2001年に研究科を開設して以降、シラバスの作成を義務づけ、シラバスに沿った授業が着実に実行されている。
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	研究科の開設以降、毎学期授業評価を実施してきており、その結果の一部 (自由記述のコメント等) を教員間で共有し、授業に生かしている。
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策 注) 出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	外部の学会でも積極的に発表するよう学生を指導する。
小項目6.3.2	英語での授業の増加に伴い、それらの科目についてはシラバスも英語で書くことを奨励する。
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	教員間の情報交換により指導方法を共有するため、FDワークショップを行う。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	履修者がおらず、その結果不開講の科目が若干数ある。
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	少人数の研究演習においても授業評価を導入しているが、サンプル数が少ないため十分なデータが得にくい。
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	学生数や学生のニーズと、科目設置の意義とを勘案して開講科目の見直しを行う。
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	研究演習については授業評価に加えて、教員間の情報交換により各教員の指導力を高めていく必要がある。そのためにも、FDワークショップを開いて演習形式の授業方法や個別指導の方法を議論し合う場を設ける。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	学生の研究活動は活発であり、教育の効果が発揮されていると言える。さらに教育効果を高めるために、個別指導やオムニバス講義など様々な指導形態での教授方法を共有するFDワークショップを開催する方針である。
----------------	---

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○「現状の説明」6.3.2と6.3.3および「効果があがっている事項」6.3.2では、「徹底している」「着実に進んでいる」との記述ですが、その判断に至った根拠の提示が望まれます（たとえば、学生による授業評価アンケートのデータ等）。

【学内委員】

○小項目6.3.4において、学生による評価が教育課程や教育内容・方法の改善にどのように活用されているのか具体的に記述することが求められます。

○目標に対し着実に進展しています。

○さまざまな目標を立て、それに向けて着実に実行していることがうかがえます。

○小項目6.3.1については少し物足りない感じがします。

○小項目6.3.4は組織的な検証、研修・研究の実施などを求めています。組織として授業評価を活用するかが問われます。伸ばさせるための方策、改善方策の実施などご努力ください。

○設定されている目標がいささか曖昧なので、具体的な目標となるようお考えください。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置（厳格な成績評価など）が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

○小項目6.3.2&6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」

達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

○小項目6.3.1～6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性

・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み

・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

「学生による評価が教育課程や教育内容・方法の改善にどのように活用されているか具体的な記述が必要」とのことですが、授業評価アンケートは各担当教員に返却され、各自の授業方法の改善の参考にします。さらに研究科全体を通して目立った意見を全教員で共有しますので、他の教員の授業方法やそれがどう評価されているのかを知ることができます。

★ シラバスの内容の徹底に関して、授業評価アンケートには、シラバスの内容を初回に説明しているかどうか、またシラバスの記載通りに授業が運営されているかどうかを問う項目は設けていませんので、今後このような項目を設けることを検討します。